

ちんじゅつしょ 陳述書

さとうすすむ がんきゅうじょうてんじ じょうたい
佐藤進さんの眼球上転時の状態について

わたくし さとうすすむ がんきゅうじょうてん とき じょうたい いか とお ちんじゅつ
私は佐藤進さんが眼球上転した時の状態について以下の通り陳述いたします。

さとうすすむ ひらぎりょう へいせい ねんしがつついたち せいかつしえん
なお、佐藤進さんについて 柎寮において平成13年4月1日から生活支援を
たんとう
担当していました。

きほんてきせいかつしゅうかん じょうきょう 1. 基本的生活習慣の状況

さとうすすむ きんせん かし ほんにん ほごしゃ いらい しょくいん かんり
佐藤進さんの金銭と菓子、コーヒーは、本人および保護者の依頼により職員が管理
していた。かいもの ないよう いきさき しょくいん そうだん よてい しなもの こうにゅう たんどう
買い物の内容や行き先は、職員と相談し、予定した品物の購入を単
おこな そのた せいかつばめん じこ いし じこ ほんだん もと
で行っていた。その他は、すべての生活場面において、自己の意思、自己判断に基
こうどう きほんてきせいかつ じりつ じょうてんじ いしき ていか
づいて行動し、基本的生活は自立していた。上転時は、意識レベルが低下するとい
いし しょけん じっさい せいかつどうさ ししょう
う医師の所見はなく、実際の生活動作にもおおむね支障がなかった。

きんせんとく かんり いらい * 金銭等の管理依頼について

ほんにん きんせん けいかくてき しょう て かぎ いちじ つか さいげん
本人は、金銭を計画的に使用せず、手にする限りを一時に使いきり、さらに際限
きんせん ぶつびんこうにゅうようきゅう さとうし あずかりきん とう いちねん
のない金銭や物品購入要求にいたるため、佐藤氏の預かり金等については、1年
ほごしゃ いらいしょ う しょくいん かんり
ごとに、保護者からの依頼書を受けて、職員が管理していた。

ふだん かいもの * 普段の買い物

しゅうまつ きゅうじつ しゅう かいいない き たかはただいだんち もぐさだんち
週末、休日のうち、週に1回以内と決め、高幡台団地セイファー、百草団地ス
およ だんちしょうてんがい たんどう かいもの い
ーパーヤマザキ及び団地商店街に単独ででかけ、買い物を行っていた。

げっかんし みょうじょう たかはたふどうえきまえ けいおう ないしょてん か
月刊誌「明星」、テレビガイドは、高幡不動駅前京王ストア内書店で買い、
かし かん はみが は かし とう たか
菓子、缶コーヒー、もなかアイス、歯磨き、歯ブラシ、マスク、菓子パン等を、高
はただいだんち もぐさだんち およ だんちしょうてんがい こうにゅう
幡台団地セイファー、百草団地スーパーヤマザキ及び団地商店街で購入していた。
ほんにん そうだん いちど かいもの つか きんがく いちかげつ さぎょうほうしょうひ がくめん
本人と相談して、一度の買い物で使う金額は、一ヶ月の作業報償費の額面とし
かいもの ないよう とく せいげん ほんにん か しょくいん
ていた。買い物の内容は特に制限しなかったが、本人が「買っていい？」と職員
どうい もと
に同意を求めていた。

かし かんり * コーヒー、菓子の管理

せいしん かい ほんにん やくそく いちにち はい き ほんにん ほんかん りょう
コーヒーは精神科医と本人の約束で一日3杯と決めていた。本人保管では量を
しょくいん ほんにん かんり
守れないので、職員が本人ロッカーにいれて管理していた。

かし いぜん す た ふと ため しょくいん ほん
菓子は、以前に好きなときに好きなだけ食べていたことで太りすぎたため、職員が本
にん ほんかん ほんにん き じかん りょう まも きょうりよく
人ロッカーにいれて保管し、本人が決めた時間と量を守ってもらえるよう協力し

ていた。

じょうてんじ ほこう
上 転時の歩行について

じょうてん じょうたい め じょう む じょうたい たかはた ふどうえき ちか
上 転の 状態 (目が 上 を向いた 状態)であっても、高幡 不動 駅からの2 キロ 近
きより あぶ ある りょう もど ある
い 距離を危 なく歩 き、寮 まで戻 ってくる ことができた。歩 けなくな ったり、う
ようす であ
ずくまる 様子に出 会ったことは ない。

じょうてん りょうがいしゅつ しゃかいさんか がいしゅつ かいもの とう ほこう ばめん じょうきょう
* 上 転は、寮 外出、社会参加 外出、買 い物等 の歩 行場 面でもよく みられた 状況
である。

いちかげつ いちかいていど しょくいん つきそ たかはたふどうえきしゅうへん かいもの い
* 一ヶ月に一回程度、職員 の付 添いで、高幡 不動 駅 周辺 での買 い物を行 っていた。
たかはたふどうえき りょう みち ほどう くま きより たも ばしょ
高幡 不動 駅 から 寮 までの道 のりは、歩 道が なく、車 との 距離が 保て ない場 所や、
ほどう の凸 凹が 多く、信号 機のある 交差 点も 3箇 所ある。目 が 上 を向 いた 状態 では
しょうめん あしもと み あたま さ ある
正 面 や足 元が見 にくいた ため、頭 を下 げて歩 いていた。

じょうてんじ にゅうよく
上 転時の入浴について

ほんにん じしん じょうてん じょうきょう おう にゅうよく ひか じかん
本人 自身が、上 転の 状況 に応 じて入 浴を 控えたり、時 間を ずらす などで
ちょうせい
調整 して

にゅうよくちゅう じょうてん お ばあい にゅうよくちゅう どうさ ししょう
いた。入 浴 中 に上 転が 起きた 場合 でも、入 浴 中 のすべ ての動 作につ いて支 障
をきたす 部分 はなく、引 き続 き入 浴 を続 けるこ とに不 安を 抱く 場面 はな かったが、
ほんにん じはつてき にゅうよく せんたく ご おお
本人 が自 発的 に入 浴 をやめ、洗 濯を した 後に、トイ レにこも るこ とも 多くあ った。
じょうてん じょうきょう かいすう べっし きろくさんしょう ねんど にゅうよくちゅうのじょうてん
(上 転の 状況 や回 数につ いては 別紙 記録 参照 - 13 年度 の入 浴 中 の上 転
かい よくしつ じょうてん はい あと じょうてん じぞく じょうたい ふたたび
は3 回)また、浴 室で 上 転 し、トイ レに入 った 後、上 転の 持続 した 状態 で再
にゅうよく つづ
び入 浴 を続 けるこ とがあ り、この と きも 本人 の様 子に 不安 はな かった。

にゅうよくじ つうじょう じょうてん おほんにん いしき じゅうだい
この ように、入 浴 時 に通 常 の上 転が 起きた とし ても、本人 の意 識には 重大
ていか しし じゅうぶん たんどうにゅうよく せいめい かが
な 低下 はなく、四 肢の コントロ ールも 十分 できて いたた ため、単 独 入 浴 が生 命に 関
きけん じょうきょう よそく こんなん
わる 危険 な 状況 である と予 測する ことは 困難 であ った。

ほんにん にゅうよく ひか ゆうがた ゆうしょく
* 本人 が入 浴 を控 えるこ とは ほとん どな かった が、夕 方に トイ レにこも り、夕 食
じかん ばあい にゅうよく たいてい ゆうしょく じかん
の時 間にな っ てしま った 場合 には 入 浴 しな いこ とがあ った。大 抵は 夕 食 時 間にか
たんどう にゅうよく じょうてん うむ にゅうよく ひか
か っ ても 単 独 で入 浴 して いた。また、上 転の有 無で 入 浴 を控 えるとい うより、
そのひ きぶん はい はいほんにん き
その 日 の気 分 で入 るが 入ら ないか を本人 が決 めて いた。

じかん じょうてん にゅうよく
* 「時 間を ずらす」とい うのは、上 転が おさま っ てから、ある いは 入 浴 した くな っ
にゅうよく じょうきょう さ
てから 入 浴 して いた 状況 を指 して いる。

よくしつ どうさ からだ たら そのご あたま たら あ せんめん どうぐ
* 「浴 室 での 動 作」とは、体 を洗 い、その 後に 頭 を洗 い、シャワー を浴 び、洗 面道 具
かくへきじょうぶ お ゆ あたた よくしつ で い どうさ ひとつひとつ
を 隔 壁 上 部 に置 き、湯 につ かり、温 まると 浴 室 を出 て行 っ ていた 動 作 一つ 一つ の

ことである。

* 「洗濯」は、本人が全行程を単独で行ってし、た。入浴後、着替えた衣服を洗濯機に入れ、電源スイッチとサイクル選択スイッチを押し、水を水槽にためている間に、居室に洗濯洗剤を取りに行き、洗剤を洗濯槽に入れてふたをするという流れであった。そして洗いあがった洗濯物は、自分で乾燥機に入れるか、ハンガーに干していた。

* 上転中の本人が自発的に浴室から出て、洗濯をした後に、トイレにこもるといふ動きは、上転の状況でも自己の生活習慣のとおり日課を追って生活できていたことを示している。

上転時の食事等について

食事や、おやつを食べている最中に上転を起こしていることがあった。誤嚥などの恐れを抱いた場面はなく、自然に食事を続けていた。食後は流しに食器を下げ、スポンジに洗剤をつけて食器を洗うという、普段どおりの動きであった。

* 週末の買い物から帰ってくると、上転を起こしていることが多かった。本人はその状態にあっても、買ってきたおやつを談話室のソファに掛けて食べていることがよくみられた。食事の中の上転はこの2年間で数回確認していた。危険な場面ではなく、記録していないので確かな回数はいえない。

上転時のトイレ使用について

普段の排便時は15分、上転時は1時間程度である。本人は、上転時においても、排便、排尿をしていた。鼻のとおりがわるくなるためトイレットペーパーで何度も鼻をかみ、排便を終了しても、拭き残しを気にして何度もお尻をふいていた。また、残尿感があるようで、尿道から尿をしぼりだすすぐさも繰り返していた。

* 排泄時の定期的な様子確認

食事を呼びかけに行ったときや、他の利用者状況の確認に際しての、本人状況は確認していた。

上転時であっても、排泄が自立している本人には、トイレ使用時の定期的な様子を確認する必要はなく、特にそういう意味での確認は行わなかった。

2、安全への配慮と自己決定の尊重について

職員が、佐藤進さんに接する際には、本人の対人関係において、意識の中心にある「力関係」=「暴力」を排除し、人間同士の信頼関係を大切にした。本人の人権を重んじ、本人の意思を最大限尊重することと安全への配慮を生活支援の根幹におき、万事、本人の意志に基づいて生活を組み立てていた。入浴については、希望すれば毎日入浴できるよう、入浴可能な時間帯を拡げ、一緒に入浴しない場合でも、各利用者の入浴状況に気を配っていた。安全面では、脱衣場、浴室の要所に滑り止めマットを敷いたり、トラブルになりやすい方向同士の同時入浴を避けるなどして浴室内の安全を確保するとともに、本人の体調に合わせて入浴を控えていただいたり、健康維持に支障のない範囲で、入浴しないことも本人の自由意思を尊重していた。

* 本人の意志に基づいた生活の組み立て

起床 - 平日は、作業訓練開始時間の午前9時にあわせ、訓練棟への移動時間、朝食摂取時間、食後のコーヒータイムを差し引き、目安の午前8時まで起床していただければよかった。通常は自分で起きており、起床を促すことはほとんどなかった。

週末、休日の起床は、本人に任せていた。

食事 - 午前8時を目安に、利用者全員に朝食を呼びかけていた。本人は呼びかけるまで

もなく食卓についていた。パン、ご飯の選択は本人の自由で、パンを好んで食べていた。

作業訓練への参加 - 参加は自由である。週末、休日の買い物1回に使用できる金額は、1ヶ月の作業報償費の額面と決めていた。休まず参加し、意欲を持って作業に従事すれば額面は増えるということである。こうしたことで、本人はほとんど休むことなく作業に参加していた。

余暇時間 - 余暇時間は本人の自由意思で過ごす。テレビ、ビデオ、音楽鑑賞、雑誌読みなどで過ごしていた。週末、休日には、週に一度買い物にでかけていた。

掃除 - 土曜の午前は居室掃除に徹するという週の日課を習慣化するため、職員が本人の求めに応じて居室の掃除や、リネンの交換を手伝った。

洗濯 - 本人が全行程を単独で行っていた。大抵の日は、入浴後に行い、夕食前に干し終えていた。入浴が夕食時間に食い込み、遅れるときには、洗濯機を回

すまして、夕食後に洗濯物を乾燥機で乾かすが、ハンガーに干すかを自己判断で行っていた。

入浴 - 入浴中の他の利用者とのトラブルを心配し、どのように入浴するが毎日その時々本人の最終判断で入浴を実施してきた。同性職員と一緒に入浴しない場合は、Aさん、Bさん、Cさん、Dさんとの同時入浴を避けるようにして、浴室での安全を保ってきた。佐藤さん自身も、トラブル時の危険性を自覚し、女性職員のみ体制のときは、入浴を控えたり、単独で入浴できる時間を選んで入浴していた。

3、地域生活移行への取り組みについて

終療では、嘱託医に相談した際の嘱託医の意見と、医療保護入院時の主治医の意見を積み上げ、佐藤進さんが当園に入所した昭和60年7月～平成7年7月までの様子の変化への対応については、以下のものであったと共通認識し、本人の自立支援の方向を模索してきた。

本人の限りない金銭や買い物に対する要求に対し、さまざまな対応を試みていたが、入所以前の本人の、無秩序で無軌道な行動傾向は変わらず、施設生活においても継続し、さらに増長していった。佐藤進さんには、相手を思いやる心が未成熟で、誰に対しても「力関係」が意識の中心にあり、「自分の要求に職員が応じる」という場面をできるだけ多く作ることによって、職員との「力関係」を優位に保ちたいという思考であった。そのため、「要求する場面を作るための要求」が、際限なく続くといったしくみである。

本人は、要求するすべてを叶え、約束外の購入地で購入し、予定購入品以外のものを自由に購入するということを重ねたことにより、要求に歯止めがなくなり、自己抑制をしなくなった。粗暴行為については、他の利用者の模倣から始まり、からだの成長につれ、トラブル相手との力関係が逆転し、一方的な暴力に及ぶようになった。こうした本人の行動に対して職員は、決して断罪せず、本人の事情を聞き、トラブルの仲裁を行っていた。本人の未熟さ、人間関係構築の手段の稚拙さ、集団生活への抵抗、思いやりが育っていないことなどのハンデを考慮し、職員は受容、共感的姿勢に徹した。

本人はこうした職員姿勢につけこみ、「職員は俺のいいなりだ。俺は自由なんだ。俺の金を出せ。俺は何でもできる。」という態度に変わり、女性職員に対しては、自分の気持ちに任せ、からだに触る、いやらしいことを言う、抱きつくなどの性的

いやがらせもするようになった。そして、さらには 職員、他の利用者に対し、直情的、高圧的に振舞う状態になり、全てにおいて自己中心的で、短絡的な暴力に訴える生活ぶりになった。

本人が「無秩序」、「無軌道」、「粗暴行為」を繰り返す目的は、自分の力を誇示するためであり、相手との力関係を優位に保つことによって「施設における安全で安心な生活」を手に入れようとしていたのだという見方である。

終 寮は、佐藤さんがひいらぎ寮に移って以来、本人の地域生活復帰の可能性を追求するにあたっては、まず、本人の無秩序で無軌道な行動傾向を修正しなければ、地域生活復帰はなし、と考え、力関係から信頼関係への転換、本人の自己統制力を高めること、きまりを守る精神を養成することなどを地域生活に向けた課題としてきた。

本人が終 寮に移ると、本人の粗暴行為は徐々に減少し、平成13年以降は暴力と呼ぶべき行為はみられなくなった。性格も穏やかになり、職員の助言を素直に受け入れるようになったため、本人と、多くのことを話し合い、より良い選択肢を提言した上で、最終的には本人の意思決定と自己責任による生活をしていただいた。

買い物などの、本人単独の外出を実施していただくか判断する際、本人の体調、目的地、購入の品、持参する金額など、本人と細かいことまでその都度話し合っていた。本人の体調が不良でも、悪天候でも駅までの買い物を希望された時は、近所のスーパー（高幡台団地セイフー、百草団地スーパーヤマザキ及び団地商店街）での買い物を勧めたり、買い物に出ることを控えるようお願いしていた。また、高額な小遣い、持ち帰れないほどの買い物を希望された時は、必要最小限とするように助言し、本人も素直に応じた。

入浴については、入りたいときに入っていたかという、本人の意思を尊重した。安全への配慮については、これまでの発作時の入浴の状況と、本人が関わる浴室内でのトラブルの状況を、本人がよく理解していたため、入浴するタイミングを本人の判断に任せたり、浴室の状況を確認し、職員が促して入浴していただいた場合のどちらもあった。

* 本人の要求の内容や発言、職員の助言など、本人との細かなやりとりの過程で示されたものはほとんど記録に残していないため、その内容については、明確に説明できない。

こべつ えんじょけいかく
4、個別援助 計画 について

さとう かぞく さとう かこ なが ねんげつ たしや む ぼうりよく こうい
佐藤さんのご家族は、佐藤さんが、過去の長い年月にわたり、他者に向けた 暴力 行為
さいはつ ねんがん かぞく しんばいごと た りようしゃ めいわく
の再発がないことを念願していたため、ご家族の心配事は、他の利用者に迷惑をか
けてないか、自己の抑制ができていないか、職員 の助言 を受け入れているかというこ
となどだった。

こべつ えんじょけいかい ないよう こんだん さい どうい いただ とく さとう
個別援助計画の内容については、懇談の際に同意を 頂 いていたが、特に佐藤さん
せいかつ につか たい いけん ようぼう にゅうよく にかん はいりょ ようぼう いっさい
自身の「生活日課」に対する意見や要望はなく、入浴 に関しての配慮や要望も一切
なかった。

かぞく にゅうよく たい ようぼう
5、ご家族からの 入浴 に対する 要望 について

かぞく にゅうよく かん ようぼう かてい きたく じ にゅうよく じょうきょう はなし
ご家族からの 入浴 に関する 要望 や、家庭帰宅時の 入浴 状況 についても、話
をしていただいたことはなかった。

へいせい ねん へいせい ねんいちがつ かぞく ほんにん かん じょうほう いただ
* 平成 7 年 ~ 平成 15 年 1 月まで、ご家族から、本人のリスクに関する 情報 は 頂
いてない。

さとう にゅうよく にかん とく りゅうい じこう
6、佐藤さんの 入浴 に関して、特に 留意 していた事項

にゅうよく ちゅう ほっさ きけん しょくいん ほんにん そうほう かくにん ほんにん
入浴 中の発作が危険でなかったことは 職員 と本人 双方で確認 していた。本人
ひび つど にゅうよく よくしつ じょうきょう つた はい
とは、日々、その都度 入浴 をどうするか、浴室の 状況 を伝え、入るタイミングを
はなしあ とときき ほんにん さいしゅうはんだん にゅうよく じっし
話し合い、その時々本人の 最終 判断で 入浴 を実施してきた。

よくしつ ほんにん た りようしゃ ひま そうほう てんとう けが
浴室で本人が他の利用者とトラブルになり、その際に、双方が転倒し、怪我をす
る危険があるため、職員 が一緒に 入浴 しない場合は、A さん、B さん、C さん、
きけん しょくいん いっしょ にゅうよく ばあい
D さんとの同時 入浴 を避けるようにして、浴室での安全を保ってきた。佐藤さん
じしん じ きけん せい じかく じよせいしょくいん たいせい た りよう しゃ
自身も、トラブル時の危険性を自覚し、女性 職員 のみの体制のときは、他の利用者
どうじにゅうよく ひか たんどく にゅうよく じかん えら にゅうよく
との同時 入浴 を控えたり、単独で 入浴 できる時間を選んで 入浴 していた。

ほんにん にゅうよく かん とりき しえん ほうしん とく ぶんしょ のこ
* 本人との 入浴 に関する 取り決めや、支援の方針については、特に文書で残した
ものはないが、佐藤さん自身が他の利用者とのトラブル回避をすすんでしていたことで、
えんかつ にゅうよく しんらい じっし じっさい じょうきょう しめ
円滑な 入浴 ができていたことを信頼し、実施してきた実際の 状況 を示したも
のである。

さとう すすむ がんきゅうじょうてん じ じょうたい
《佐藤 進 さんの 眼球 上 転時の 状態》

わたくし いのまたけんじ さとう すすむ しえん い じ お がんきゅうじょうてん じ
私、猪俣健治が、佐藤 進 さんへの支援を行っている時に起きた 眼球 上 転時の
ようす について、記憶の鮮明な 3 例を述べさせていただきます。

1、平成14年5月5日

当日の午後、園からおよそ2Km離れた高幡不動に、本人を含め、利用者4人に、
実習生1名と私が付き添い、散歩に行きました。佐藤さんは、駅前のスーパーマ
ーケット「おおた」の外にある自動販売機で缶コーヒーを買い、その場で飲んで、帰
り道に向かいました。「銀だこ」というたこやきの店前に差し掛かる頃から眼球上転
が始まり、察に帰りつくまでその状態でした。「気をつけてよ。足元見えるんです
か？」と質問すると、「見える。大丈夫。」と答えました。帰路は、急で長い上り坂
が続くということもあって、歩く速さはゆっくりでしたが、立ち止まることはなく、
危なっかしい歩調でもありませんでした。

2、平成14年10月25日

この日は社会参加外出で昭和記念公園まで園パスで行きました。私は出発の
朝9時より、ずっと佐藤さんに付き添っていました。佐藤さんは、芝生で幕の内弁当
を食べた後、あらかじめ配られていた「カール」と「おとっと」という菓子を一気
に食べ切りました。その後、佐藤さんも含め、数人のグループ行動になり、公園内
の売店を巡ってビール2缶、ソフトクリームを食べ歩いたのです。1軒目の売店に
近づいた頃から、眼球上転し、売店裏のトイレにかぎを掛けずに60分こもって
いました。トイレでは大使、小便をしながら、辛そうに鼻をかんだり、陰部をはたい
たり、絞ったりという動作を繰り返していました。私が、「大丈夫？みんなが待っ
ているので少し急いでね。」と声をかけると、佐藤さんは早口で、「大丈夫。」と答え
ました。トイレから出てきてもまだ上転していましたが、売店でビールを購入し、
テーブルに運び、腰掛けるとすぐにプルトップを開け、「おいち、おいち」といいなが
ら飲んでいました。私が「今日は特別、ビール飲めるだけ飲んでいいよ。」と話すと
「いいの？本当に？」と喜びました。店を発つときも、まだ上転ぎみでしたが、か
なりの距離を歩き、集合時間の迫る頃、集合場所近くの売店で2本目のビールと
ソフトクリームを購入し、ビールは慌てて流し込んでいました。この時は上転がお
さまっており、私が「ビール2本飲んだことは内緒だよ。」というと、「内緒ね、内緒
ね。いのまたー」と言いながら、私に抱きつき、喜んでいました。

3、平成14年12月14日

昼食後、佐藤さんに、歌声サークル「谷間」のコンサートに行ってほしいと話し

ましたが、それを断り、単独で買い物に行き、上転気味で戻ってきました。2階に
上がると眼球上転していました。買い物袋を持ち、2階娯楽室のソファに腰掛
けました。缶コーヒーを開けて一口飲むとテーブルの角にコーヒーを置き、チョコモ
ナカジャンボというアイスクリームを開封し、大きく1口、そして2口かじりまし
た。またコーヒーを一口含み、そしてアイスをおお大きく1口、そして2口かじり、充
分溶けない大きな固まりのまま「ゴクッ」と音をたててアイスを飲み込んでいまし
た。アイスも、缶コーヒーも終えたところで、私は、「コンサートまだやってるよ。
いってきたら。」と誘いました。するとすぐに佐藤さんは腰を上げ、そそくさと缶や
ごみを片付けながら「行ってくる。」といい残して、つばき寮2階の会場に一人で出
かけました。この間、ずっと眼球上転の状態でした。

平成16年3月1日 柊寮職員 猪俣健治(自筆) 印

ちんじゅつしょ
陳述書

さとうすすむ がんきゅうじょうてんじ じょうたい
佐藤進さんの眼球上転時の状態について

わたくし さとうすすむ がんきゅうじょうてん とき じょうたい いか とお ちんじゅつ
私は佐藤進さんが眼球上転した時の状態について以下の通り陳述いたします。

さとうすすむ ひいらぎりょう へいせい ねん しがつ へいせい ねん
なお、佐藤進さんについて 終 寮において平成13年4月から平成14年まで
せいかつしえん たんどう
生活支援を担当していました。

がんきゅうじょうてんじ
1、眼球上転時について

じかんたい
時間帯

がんきゅうじょうてん あらわ
眼球上転の現れるのはまちまちであった。

がいしゅつじ よるこ こうぶん
外出時に喜びのあまり興奮したとき、

じぶん おも かいもの
自分の思うように買い物ができたとき、

ぎやく やくそく まも
逆に約束を守れなかったとき、

くんれんどう さぎょう かけ
訓練棟の作業から帰ってきたとき、

しょくじまえ なか あと
食事前・中・後、

さんぽ さいちゅう
散歩の最中

にゅうよくまえ なか あと
トイレや入浴前・中・後、

せいかつぜんたい み
のように生活全体に見られた。

うけこた
受け答え

がんきゅうじょうてん お しょくいん こえ こた
眼球上転を起こしているとき、職員の声かけに答えることができたほど

いしき
意識はしっかりしていた。

じょうてんじ しょくいん ようす たず みぶ ことば へんじ こと
上転時に職員が様子について尋ねるなどすると身振りや言葉で返事をする事

み
が見られた。

こうどう ようす
行動・様子

がんきゅうじょうてんちゅう こうどう
(1) 眼球上転中の行動

かいもの
a 買い物

じょうてん お かいもの じぶん のぞ とお おこ
上転が起きているときでも、買い物は自分が望む通りに行なってきていた。

ほこう
b 歩行

ほんりようしゃ つきそ だかはたいだんち もぐさだんち かいもの きりようちゅう
本利用者につき添い高幡台団地や百草団地からの買い物をし帰寮中に

がんきゅうじょうてん あらわ ほこう ある
眼球上転が現れたときの歩行はしっかりと歩くことができていた。

たんどくさんぼ かいもの じょうてん きりょう きりょうご
単独で散歩や買い物をして上転しながら帰寮したことがありますが、帰寮後
つか ようす み
に疲れている様子は見られませんでした。

c 入浴

にゅうよくまえ じぶん じしん じょうてん しゅうりょう へんじ
入浴前なら 自分自身で上転が終了してからと返事をしました。

にゅうよくちゅう じぶん じしん そうそう にゅうよく しゅうりょう
入浴中は 自分自身でも早々に入浴を 終了 していました。
よくそう よくしつ で あんぜん みずか かくにん きが
浴槽および浴室から出るとき安全を自ら確認し着替えをし
て出ていました。

d 食事

がんきゅうじょうてん ごいん きけん み
眼球 上転をしているときでも誤飲の危険は見られなかった。

(2) がんきゅうじょうてんちゅう ようす
眼球 上転 中の様子

a トイレにこもる

がんきゅうじょうてんちゅう こうどう よ み
眼球 上転中に「トイレにこもる」といった行動が良く見られました。

じょうてん しゅうりょう あいだ ながいあいだずわ ばな しり ぶい
上転が 終了 するまでの 間 トイレに長い間 座り、鼻をかんだりお尻を拭た
りしていました。この時に前(床)に倒れこむような危険は見られませんでした。
じ まえ ゆか たお きけん み

じょうたい すうぶん お とき ぶん ぶん
トイレにこもる 状態 は数分で終わる時であれば20～30分ときには40分
にわたることもありました。

りょうがいしゅつじ じょうたい み じょうたい
寮 外出 時にこのような 状態 が見られました。トイレにこもっている 状態
にあっても しょくいん こえ おう
も意識はしっかりとし、会話もでき危険は感じられなかった。
いしき かいわ きけん かん

b ばな き
鼻をしきりに気にする。

がんきゅうじょうてん さいちゅう ばな ばな おちつ
眼球 上転をしている 最中 にしきりに鼻をこする、鼻をかむといった(着
かない) 様子でした。

c かいわ
会話

がんきゅうじょうてんまえ ときどき まわ
眼球 上転前に時々ろれつが回らないときがありました。

がんきゅうじょうてんちゅう しょくいん たしや かいわ と
眼球 上転中の 職員 または他者との会話は取れていました。

2、 がんきゅうじょうてんちゅう たいおう
眼球 上転 中の対応

りょうない がんきゅうじょうてん み てんとう ちゅうい
寮内 で 眼球 上転が見られたときは転倒などに注意をした。また、トイレにこ

もっているときには定期的に声をかけ注意をした。

3、眼球上転時の具体例

平成13年7月23日、入浴時に眼球上転が起こる。

入浴中に眼球上転が始まる。職員は他の利用者の入浴援助をしており、本利用者は浴槽に浸かっていた状態であった。本利用者はいつもゆっくり長めにお湯に浸かっているのだが、そのときに限って早くにあがるため見ると眼球が上転をしていた。

職員が「大丈夫か？」と尋ねると、上転をしながらうなずき浴槽内の階段をゆっくりと確かめながら湯船からあがりお風呂チェアーや湯桶などを避けながらつまづくことなく脱衣所に行き、着替えていた。

着替えた後、トイレに(こもり)すわる。ときどきトイレに様子を確認しに行くと鼻をしきりにかみ、首を何度もかしげることを繰り返していた。「大丈夫か」と尋ねると

「だいじょうぶ」と答えていた。

夕食時に声をかけると、まだ眼球上転は収まっていなかったが、食事のためテーブルにつき夕食を食べた。夕食後には上転が終わっていた。

宿泊旅行中に眼球上転がおきる。

平成14年10月9～10日 宿泊旅行で草津に行く。夜、宿泊先のホテルにて夕食にビールをのみ食事を楽しむ。ビールを1杯飲んだところで本利用者が眼球上転を始める。カラオケの順番の最後に眼球上転をしながらも1曲歌った。

平成16年2月29日

ひいらぎ寮 職員 田平 芳久(自筆) 印

ちんじゅつしょ
陳述書

さとうすすむ がんきゅうじょうてんじ じょうたい
佐藤進さんの眼球上転時の状態について

わたくし さとうすすむ がんきゅうじょうてん とき じょうたい いか ちんじゅつ
私は佐藤進さんが眼球上転した時の状態について以下のとおり陳述いたします。

さとうすすむ ひいらぎりょう へいせい ねんしがつ へいせい ねん せいかつ
なお、佐藤進さんについて 柎寮において平成13年4月から平成14年で生活
しえん たんどう
支援を担当していました。

さんぼちゅう
散歩中にて

まえ
1. TKショップの前にて

たんどく かいもの しょくいん もぐさだんち まえ がんきゅう
単独で買い物しているときに職員 たまたま百草団地のTKショップ前にて眼球
じょうてん みる がんきゅうじょうてん すわ た
上転しているのを見かける。眼球上転しつつもしっかりとアイスを座って食
べていた光景を目撃。

たんどく かいもの ちゅう
2. 単独で買い物中

きりょうちゅう がんきゅうじょうてん お きりょう か はな
帰寮中に眼球上転を起こしたらしく、そのまま帰寮。「買って来た」と話し、
しょくいん しなもの かね わた がんきゅうじょうてん けいぞくちゅう そのごほんにん へや
職員に品物とお金をきちんと渡す(眼球上転は継続中)。その後本人は部屋
もど なお しょくいんしつ もど か か なんと はな
に戻る。直ると職員室に戻り、「買って来た、買って来た」と何度も話しかけて
くる。また、何を買って来たかはしっかりと記憶をしている。

たま どうぶつえん
3. 多摩動物園にて

たま どうぶつえん い かえ どうぶつえん よ そのかん がんきゅうじょうてん はじ
多摩動物園に行った帰りに動物園トイレに寄り、その間に眼球上転が始まる。
しかしすぐにトイレから出てきてしっかりとした足取りをして帰寮。帰寮の歩行
ちゅう あしど きりょう きりょう ぼこう
中はしっかりとした足取りだった。

きょうつうじこう ことば きゅうげき
* 共通事項として言葉が急激になくなる。

はな にたい はんのう
* 話しかけに対してはうなずいたり、「うん」とのしっかりとした反応はある。

りょうない
寮内では

1. トイレにて

みずか すわ がんきゅうじょうてん お ひんばん み
自らトイレにおいて座りながら眼球上転を起こしているのを頻繁に見かけ
る。「だいじょうぶ？」との声かけに対して「うん」との返事があり、また がんきゅう
じょうてんちゅう なんと ちゅう す やく
上転中トイレトーパーを何度もちぎってはトイレの中に捨てていた。約
じかん すわ
1時間ほど座っていた。

にゅうよく
2. 入浴

がんきゅうじょうてんちゅう けつ しつ い なお かなら にゅうよく
眼球上転中は決して浴室に行かず、直ってから必ず入浴をしていた。

へいせい ねんさんがつしたち
平成16年3月1日

ひいらぎりょうしょくいん たくら かずこ じひつ いん
柎寮職員 田倉和子(自筆) 印

ちんじゅつしょ
陳述書

さとうすすむ がんきゅうじょうてん じ じょうたい じょうたい
佐藤進さんの眼球上転時の状態について

わたくし さとうすすむ がんきゅうじょうてん じ じょうたい いか ちんじゅつ
私は佐藤進さんが眼球上転した時の状態について以下のとおり陳述いた
たします。

さとうすすむ ひいらぎりょう へいせい ねん しがつ へいせい ねん
なお、佐藤進さんについて 柎寮において平成13年4月から平成14年ま
で生活支援を担当していました。

かいもの で とき ぶつう じょうたい がんきゅうじょうてん きりょう
買い物へ出かける時は普通の状態だが眼球上転しながら帰寮することがあった。

その時の様子 ...

まいかい かい じさん まちが きぼう か
毎回買いたいものをメモして持参していたが、間違えることなく希望するものを買って
帰ってきた。

わす もちかえ てらしあ けいさん あ
レシート、おつりを忘れず持ち帰り照らし合わせても計算は合っていた。

しょくいん かいわ
職員との会話はできた。

うけわた かいもの ようす そのご よてい はな
おっりの受け渡し 買い物の様子、その後の予定などを話した。

「さんと会ったよ」

や こうり のものを買うと言っていたが5個入りを買ってきたので訊ねると

「売っていなかった、それ(五個入り)しか売っていなかった」

りょう なか がんきゅうじょうてん みずか ようしき すわ
寮の中では眼球上転したときは自ら洋式トイレに座っていた。

そのさい かいわ
その際も会話できた。

だいじょうぶ
大丈夫ですか？

「うん」

ごはん
ご飯ですよ

た た
「食べる、食べる」

ふる
お風呂はどうします？

はい
「入らない」

へいせい ねんさんがつたち
平成16年3月1日

りょうしょくいん きむら ゆうこ じひつ いん
ひいらぎ寮職員 木村祐子(自筆) 印

ちんじゅつしょ
陳述書

さとう すすむ がんきゅうじょうてん じ じょうきょう
佐藤 進さんの眼球上転時の状況について

わたくし さとう すすむ がんきゅうじょうてん とし じょうたい いか ちんじゅつ
私は佐藤進さんが眼球上転した時の状態について以下のとおり陳述い

たします。

さとう すすむ ひらぎりょう へいせい ねんしがつ へいせい ねん
なお、佐藤進さんについて 終 寮において平成9年4月から平成14年まで
せいかつしえん たんとく
生活支援を担当していました。

りょうがいしゅつ へいせい ねんにつ 日に たちかわ
○ 寮外出（平成12年2月19日 立川へ）

がいしゅつ ほんにん たの にち あさ お はや はや
外出は本人楽しみにしており、そういう日は朝起きるのも早く、早くから
がいしゅつぎ きか で ほど きぶん つきそ しょくいん
外出着に着替えて、出かけるのをせかす程である。気分もいいのか付添い職員に
しつこいくらい話しかけ、四六時中しゃべりっぱなしといった感じである。昼食後、
「トイレに行ってくる」と言うので、男性トイレに入るのを確認し、しばらく待つ。
ふんほどす で こ だいべん おも まえ ま で こ
10分程過ぎてもトイレから出て来ず、大便かと思いいトイレの前で待つが出て来な
い。（どの位待ったか不明）人のいなくなった所で、トイレに行き声かけると、だいべん
どのくらいま ふめい ひと ところ い こえ だいべん
トイレより返事がある。鍵が掛かっているので本人に開けるよう声かけすると開け
たので見ると、べんき すわ ちぎ しり ふ かみ
便器に座ったままトイレットペーパーを契り、お尻を拭き、その紙
なが くりかえ べん で おも ようす で ようす
をトイレに流す、を繰り返している。まだ便が出るのかと思って様子みるが、出る様子
なく強引にズボン上げ、外に連れ出す。本人は「未だ便が出る」と言うが、がんきゅう
じょうてん そと つれだ で はな きろ につく
が上転していたので、そのまま外に連れ出し、もう出ないから話し帰路につく。
りょう かえ ことばかずすく と こた ほんにん はな
寮に帰るまでは言葉数少なく、こちらの問いかけには答えるが本人からの話しか
けはない。しょくいん こ つ ある おそ りょう かえ きりょうご
職員の後につき（歩くテンポは遅い）寮に帰る。帰寮後はしばらくト
イレに入っており、はい ゆうしょく とし もと もど せいかつ おく
夕食の時には、元に戻りいつもの生活を送っていた。

いるいこうにゅう へいせい ねんいちがつ 日に たちかわ
○ 衣類購入（平成13年1月31日 立川へ）

にん りょうしゃ いっしょ たちかわ かいもの い このひ きげん いるい かいもの
3人の利用者と一緒に立川まで買物に行く。この日も機嫌よく、衣類の買物で
かいもの も じぶん えら ようぶく か
は、買い物カゴを持ち、自分で選んだ洋服を「これでいい?」「あとこれ買っていい?」
つど しょくいん き き うれ い ちゅうしょく ほんにん きぼう
とその都度職員に聞きに来て、嬉しそうにカゴに入れていた。昼食も本人の希望
みせ はい た ちゅうしょく た がいしゅつ ようけん す ころ このひ たちかわ
のお店に入り食べる。昼食を食べ、外出の用件が済んだ頃（この日は立川の
えき ある かえ とちゅう いま むくち
モノレール駅に歩いて帰る途中）今までよくしゃべっていたのが、無口になってい
るので見ると、み がんきゅう じょうてん だいじょうふ き ことばすく へんじ
眼球が上転していて、大丈夫?と聞くと「うん」と言葉少なに返事
かいだん しょくいん き かたわら つ しんちょう
する。階段やエスカレーターでは、職員が気になったので 傍に付くが、慎重に、
いっばんいちだんじょうてん め としおりあたま した む のぼ えき
一般一段上転している目を、時折頭ごと下に向けながら登りモノレール駅へ。
こちらから話している事はわかるらしく、こと と へんじ かえ
問いかけには「うん」という返事が返っ

てくる。時間じかん的てきには15：00頃ころ～16：00頃ころだったように思う。帰寮おも後きりょうご、上転じょうてん
が戻もどると「今日きょう行いった買物かいものは楽たのしかった」と、又また良よくしゃべっていた。

○ トイレにて

日常にちじょう的てきな場ば面めんで眼がん球きゅうが上じょう転てんしていたのは、午後ごご3時じごろ頃ころ～午後ごご6時じごろ頃ころに見み受うけ
られた。ク拉斯かえから帰かえり、入浴にゅうよくの声こえかけしようとした時とき、姿すがたが見みえなないので捜さがす
と眼がん球きゅう上じょう転てんさせながら洋式ようしきトイすわレふんほどに座おさっていた。30分ふんほど程おさで治あままりトイすわレつづから出こと
てくる事こともあれば、1～2時間にじかん過すぎても治あままらずトイすわレつづに座ことり続あまける事こともああった。余あま
り長ながい時ときには、強引ごういんにトイだレじしつから出もどし、自室じしつに戻もどるか食しょく堂どうに連つれて来きて、夕食ゆうしょく
を摂とるよう働はたらきかさいどけた。そうなると再さいど度どトイじぶんレもどに自こと分へやから戻やする事こともななく部へや屋やすで休やす
でいたり、時間じかんがじかんかかゆうしょくるが夕食とを摂とったりしていた。

2004年ねん2月にがつ27日にち

ひいらぎ寮りょうしょくいん職員きむら すみえ 木村澄江じひつ (自筆) 印いん

ちんじゅつしょ
陳述書

さとうすすむ がんきゅうじょうてん じ じょうたい
佐藤進さんの眼球上転時の状態について

わたくし さとうすすむ がんきゅうじょうてん とき じょうたい いか ちんじゅつ
私は佐藤進さんが眼球上転した時の状態について以下のとおり陳述いたします。

さとうすすむ ひいらぎりょう へいせい ねん しがつ へいせい ねん
なお、佐藤進さんについて 柊寮において平成13年4月から平成14年まで
せいかつしえん たんとう
生活支援を担当していました。

○ がんきゅうじょうてん じょうたい かいもの かえ げんかんさき み
眼球上転の状態 で、買い物から帰ってきたところを、玄関先で見かけたこと
があります。

だいじょうぶ こえ ほんにん がんきゅうじょうてん
「大丈夫ですか。」と声をかけると、ご本人は、眼球上転していましたが

だいじょうぶ へんじ
「大丈夫。」と返事していました。

いしき かい む かいだん て あぶ
意識はしっかりしていて、2階に向かう階段も、手すりにつかまらずに、危なげ
ようす のぼ
ない様子で上ってゆきました。

じしつ がんきゅうじょうてん ばめん み
トイレおよび、自室で眼球上転している場面をよく見かけていました。

へや はな
部屋ではティッシュで鼻をかんでいました。

べんざ こしか がんきゅうじょうてん
トイレでは、便座に腰掛けたまま眼球上転していました。

ばめん だいじょうぶ こえ ほんにん だいじょうぶ
どちらの場面でも「大丈夫ですか。」と声をかけましたが、ご本人は「大丈夫。」
へんじ
と返事していました。

へいせい ねん にがつ にち
平成16年2月26日

りょうしょくいん はやかわのりこ じひつ いん
ひいらぎ寮 職員 早川範子（自筆） 印

ちんじゅつしょ
陳述書

さとうすすむ がんきゅうじょうてん じょうきょう
佐藤進さんの眼球上転の状況について

わたくし さとうすすむ がんきゅうじょうてん とき じょうたい いか ちんじゅつ
私は佐藤進さんが眼球上転した時の状態について以下のとおり陳述いたします。

さとうすすむ ひいらぎりょう へいせい ねん しがつ へいせい ねん
なお、佐藤進さんについて 終 寮 において平成12年4月から平成14年まで
せいかつしえん たんどう
生活支援を担当していました。

かいわ
< 会話 >

じょうてんちゅう はな ひとつふたこと こと
上転中も話しかけると一言二言で答えていた。
たと しょくじ こ たぶん い こえ い
例えば、食事に来ないので多分トイレかなとそこへ行き、声をかけると「行くよ」
こと
と答えていたなど。

ほこう かいもの
< 歩行・買い物 >

じょうてんちゅう だつじょう へや いどう み こと
上転中に脱衣場からトイレへ、または部屋からトイレへ移動しているのは見た事
があるが、上転中に出かける事はなかった。
かいもの で じょうてん がんきゅうじょうてん かえ こと
ただ、買い物に出かけているときに上転になり、眼球上転しながら帰ってくる事
はあった。
かいもの す
でも買い物はきちんと済ましてきている。

いるいこうにゅう い かいもの お ちゃ の はい
衣類購入に行ったとき、買い物も終わり、お茶を飲んでいるときにトイレに入りた
がり、見ると眼球上転の状態になっていた。

いちにち なか きぶん たか あと がんきゅうじょうてん
* 一日の中で、気分の高まることがあった後によく眼球上転になっていた。
がいしゅつ た りょうしゃ ゆうがた おお
外出や他の利用者とのトラブルがあったときなど。夕方が多かった。

がんきゅうじょうてん はい
* 眼球上転になるとトイレに入りたがった。

じかんてき ふん いちじかん
* 時間的には30分から一時間ほどだった。

へいせい ねん にがつ にち
平成16年2月27日

りょうしよくいん
ひいらぎ 寮 職員

やざき ゆか じひつ いん
矢崎由加(自筆)印

ちんじゅつしょ
陳述書

さとうすすむ がんきゅうじょうてん
佐藤 進さんの 眼球 上 転について

わたくし さとうすすむ がんきゅうじょうてん とき じょうたい いか とお ちんじゅつ
私は佐藤 進さんが 眼球 上 転した時の 状態 について以下の通り 陳述 いたしま
す。

さとうすすむ ひいらぎりょう へいせい ねんど へいせい ねんど せいかつしえん
なお、佐藤 進さんについて 柎 寮 において平成 8 年度～平成 14 年度まで生活支援
を 担当 していました。

にゅうよく ばめん がんきゅうじょうてん じ お おお
入浴 場面での 眼球 上 転は、よくそうにつかっている時に起きることが多かった。
ゆ つ じかん なが そのかん じょうてん お
お湯に浸かっている時間は長くなかったが、その間に 上 転を起こしていた。
じょうてん お そ せいば あらえば いす すわ
上 転を起こしていてもひげを剃ってもらうため洗い場にあがり、椅子に座って
じゅんばん ま
順番 を待っていた。

じょうてん とき は こうい み で なんと
上 転をした時は、つばを吐く行為が見られた。つばは出ないが、何度となく
つばをはいていた。

じょうてん じ と
また、上 転時にはしゃべらなかった。しかし、こちらの問いかけにはしっかりと
こた
と答えられていた。

こうどう ふだん ちが かんまん じぶん ふく き あしど
行動は普段と違い緩慢になるものの、自分で服を着てしっかりとした足取ど
り
で浴室を出て行った。

りょうがいしゅつさき じょうてん はいりこ だいべんき すわ うちがわ
寮 外出先 でも 上 転があり、よくトイレに入り込んでいた。大便器に座り内側
からカギをかけて20～30分は出てこなかった。 外出先 でもあり何度も声かけをし
てようやくカギをあけ出てきてもらった。

しゅうまつ かいもの たんどく い かえりみち じょうてん かえ こと
週末 の買い物は単独で行っていたが、帰り道に 上 転をして帰ってくる事があ
った。黒目が上にあがった 状態 なので前がみずらかったと思うが、しっかりとした足
どりでひとりで帰ってこられた。

しゅうまつ さんぽ ところ どうぶつえん い じょうてん お こと
週末 の散歩に2～3キロの所にある 動物園 に行ったときも 上 転を起こした事が
あった。園内を散策中と帰り道に 上 転を起こすことがあったが、20～30分
の
みちのりを自分で歩いて帰ってきた。

ばめん がんきゅうじょうてん お きょうつう かなら
どのような場面で 眼球 上 転を起こしても 共通 していたことは、必ずトイレに

はいりこ
入り込むことだった。ようしき き すわ
様式便器に座っていたが しょうべん だしき
小便を出し切ってしまった後も じょうてん
上転
をしているときは ざんにょうかん
残尿感があるらしく こえ
声がけしても「まだ出る」といって、なが
長いときは
は 1 ~ 2 時間出でこなかった とき
時もあった。このときも つば は
つばを吐いていた。

へいせい ねんさんがつuitachi
平成 16 年 3 月 1 日

もと りょうしよくいん よしかわよしあき じひつ しるし
元ひいらぎ寮 職員 吉川吉昭 (自筆) 印

ちんじゅつしょ
陳述書

さとうすすむ がんきゅうじょうてんじ じょうたい
佐藤進さんの眼球上転時の状態について

わたくし さとうすすむ がんきゅうじょうてんじ じょうたい いかとお ちんじゅつ
私は佐藤進さんが眼球上転した時の状態について以下の通り陳述いたします。

さとうすすむ ひいらぎりょう へいせい ねんど へいせい ねんど せいかつしえん
なお、佐藤進さんについて 終寮において平成9年度～平成14年度まで生活支援
たんとう
を担当していました。

H15.1.7の就前の薬くすりを20:30に服用ふくようし、夜間良眠やかんりょうみんする。

H15.1.8の朝あさ、7:40に朝食準備ちょうしょくじゅんびに2階へ行くとき起きて、娯楽室ごらくしつのソ
ファーすわに座っていた。

げんき しょくじ と しょくご の いか
元気にあいさつし、食事を摂り、食後のコーヒーを飲み、8:45にはクラスへ行
くと1階かいに下りていく。

がんきゅうじょうてんじ じょうたい
眼球上転時の状態

- 自分じぶんにとって「うれしいこと」がある、買い物かいものに行き好きなものいすを買える時か、
寮外りょうがいしゅつ出で出かける等で 等など そういう時じに上転じょうてんあり。
また、身体しんたいが疲れ時つか等も上転じょうてんしていた。
- 眼球上転がんきゅうじょうてんをした時ときは、トイレさんじかんにこもり2～3時間で出てこない時ときもあり、排尿はいりょう
した後あとでも残尿感ざんにょうかん(?)があるのか、ずっと洋式ようしきトイレすわに座っていた。ペー
パーしょうりょうも使用料おが多かった。様子ようすを見にいき、声こえがけをすると必ず返事かならへんじはして
いた。
- 眼球上転がんきゅうじょうてんをしている時ときは、口数くちかず少なく静しずかだった。
動きうごは緩慢かんまんになったが、足元あしもとがふらついたり、話はなしができない等などということは
なかった。
- 眼球上転がんきゅうじょうてん時には本人ほんにんがこだわったのは、トイレすわにこもること。
ずっと座りすわ、ペーパーなんかいで何回ふも拭ふいていた。
食べ物たべものや水みずのみにこだわることなし。とにかく、トイレすわにこもることは、上転じょうてん
時とき必ずあり。
- 午後ごご、上転じょうてんすること多おかったと思う。(訓練棟くんれんどうから帰寮後きりょうご、寮外りょうがいしゅつ時とき、夕食ゆうしょく
の前ぜんご後)

へいせい ねんさんがつたち
平成16年3月1日

もと りょうしょくいん やましたけいこ じひつ しるし
元ひいらぎ寮職員 山下恵子(自筆)印